

C06a 民衆が生活のなかで形成した星に関する伝承知

北尾浩一 (公益財団法人 大阪科学振興協会 中之島科学研究所)

生活のなかで形成し世代を超えて伝承してきた星の和名が、今、失われようとしている。まさに調査研究最後のチャンスである。

星の和名というと野尻抱影先生の『日本の星』によって、完成されていると誤解されることがあるが、野尻先生以降も新たな和名が記録されている。また、野尻先生に報告されながら『日本の星』に掲載されなかった和名もある。

本研究では、2013年においても記録できた和名「酔いどれ星」(カノープス、東京都八丈島)や2012年において記録できたスバル(スマル、ナナツボシ)の俚謡について報告するとともに、野尻先生以降に記録された伝承資料をもとに民衆の生活のなかの星の観察力を再評価する。そして、和名が単なる名前ではなく、生活のなかでの観察が反映された豊かな多様性を持ったものであることを明らかにする。